

国際・交流委員会 基本方針（案）

国際・交流委員会 委員長 古賀 智博

1 昨今、高齢化や人口減少、地域格差による都心部への人財の流出などの影響により、國
2 外からの就労者や技能実習生が増えている中、正しい国外文化の理解やコミュニケーションの在り方を改める機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受け入れ、
3 地域に住み暮らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と密接な
4 交流を深め知識を醸成していく必要があります。

5 まずは、諸先輩が1985年から継続してきた姉妹J Cである社團法人台南市新營國際青年商會との交流が本年度で38年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、互
6 いのLOMで意見交換を行い、新たなる交流の発展を追求することに果敢に挑戦します。
7 そして、時代背景に捉われない文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際
8 交流するために、佐賀青年会議所メンバーに積極的な参画を促し、国際意識を高める機
9 会を創出します。さらに、国際化が進む地域社会においても先導的挑戦をしていくために、
10 身近に住み暮らす在留外国人の方とレクリエーションを通じた交流事業を行い、グローバ
11 ルなパートナーシップを築く第一歩とし、地域社会の活性化につなげます。また、本年度
12 に開催されるASPAC堺高石大会への積極的な参加を促すために、日本青年会議所等か
13 ら発信される情報を集約した周知活動を行い、近隣諸国との交流がどのようになされている
14 のかメンバーの理解を深めます。そして、JCI世界会議においては世界規模の交流事
15 業におけるスケールメリットを体感するために、メンバーに積極的な参加を促す諸国文化
16 の情報発信を行い、郷土の更なる発展を考える機会を創作します。

17 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動
18 を行い、一人ひとりの違いを柔軟に受け入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性
19 を活かした佐賀を創造していき、地域で勢いよく輝き続ける団体を目指して参ります。

20

21

22 [事業計画]

- 23
- 24 1. 新營 J C訪問、交流（6月）
25 2. シニア総会の参加者支援（1月）
26 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
27 4. 例会の企画・運営（3月）
28 5. ASPAC参加者への支援（6月）
29 6. JCI世界会議参加者への支援（11月）
30 7. 卒業生を送る会の企画・運営（12月）